
ソ連軍のちょっとアホなお話

栗林

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ソ連軍のちよつとアホなお話

【コード】

N7508H

【作者名】

栗林

【あらすじ】

その昔存在した原爆以上にバチあたりな兵器…そのせいでソ連軍は…

むか〜しむかし、あるところに
ソビエトという、大きな国がありました

スターリン君のソビエトはとっても大きな国でしたが
ヒトラー君のドイツに攻められて大ピンチでした

そこでソビエトはドイツを撃退しうる
ものすごい兵器を開発したのです

それが『対戦車犬』です
おどろくなかれ、機械じゃなくてお犬様なのです

背中に爆薬と起爆スイッチとなる木製レバーを背負って
木製レバーを垂直に立て敵戦車を目指して走ります
そして爆薬を背負った空腹の犬を敵戦車の前に放ち、
戦車の下に潜り込んだところで起爆レバーが倒れ、敵戦車を破壊し
ます

「よし！いけ！」
と1人さけば何十頭何百頭も犬はかけだします
はたしてドイツの戦車を倒せるのでしょうか？

答えはNoです

1942年のある日の戦闘では
犬達を出撃させた所、なんとドイツの火炎攻撃に犬達はびびってしま
まい
ソ連兵たちの下へ帰ってきててしまいました

もうオチはわかりますね

ワン！ ワン！

ヒーン！

「ん？」

1人が気がついた時には、もう手遅れです

「ば…馬鹿野郎！！…こっちにくるなあああ！！…！」

逃げ帰ってきた犬たちは自爆しました
犬も死んでしまいました。がソ連軍も甚大な被害をうけました

犬に爆弾をつけたのがバチだったのでしょう
さすがソ連です、バチあたりな戦法を用いて自爆しました

おしまい

(後書き)

ちなみにこの対戦車犬は実戦で使われ
実際に自軍が大損害をうけています。

犬の神様からのバチですね。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7508h/>

ソ連軍のちょっとアホなお話

2010年10月28日09時03分発行